

令和7年度 船原幼稚園教育活動に対する学校評価委員報告書

学校法人 さくら学園 船原幼稚園

1. 園の教育目標

- * 生き生きとして明るく、思いやりのある子ども
- * 友だちと一緒に楽しく遊ぶことのできる子ども
- * あそびや生活の中で、自分で考え、行動し、試し、工夫してやろうとする子ども

2. 今年度の重点目標

- * 子ども達の、なぜ？どうして？を大切にし、子どもと同じ目線に立って保育する
- * 未来に向かって育っている子どもの将来を見据えた『今』を大切にしたい保育
- * その子の良さや可能性を引き出す保育
- * 子ども達も保護者も安心して園生活を送ることが出来る幼稚園

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(評価点 A 十分に成果あり B 成果あり C 少し成果あり D 成果がない)

		教師	学校評価委員	
評価項目	達成度	理由	達成度	理由
あそびや行事等の様々な体験が、年齢やクラスの実態に合ったもので子どもたちにとって充実したものになっていたか	A	➤ 初めての活動を楽しいと思えるように工夫し、簡単な言葉を使ってわかりやすく伝えることに気を付けた。行事に期待感が持てるよう紙芝居や絵本で話をしたりした。 ➤ 行事に向けた製作では色々な素材を使ったり、子どもの発達に合わせた内容になるよう配慮した。子ども達が自分たちでやりたいといった活動は出来る限りやらせてあげられるよう工夫した。教師が楽しむ姿を見せ、やってみたいと思えるように配慮した。 ➤ 活動が義務的になってしまった部分があり、子ども達のためにもっと楽しく工夫できたのではないかと反省。子どもの発達段階を把握し、もっと充実したものにしていきたい。 ➤ 子ども達が遊ぶ様子から確実に成長していることを実感する。団結力も芽生え子ども同士で互いに相手の事を気遣ったり、仲間意識が強くなったりしたと感じた。 ➤ 子どもたちが好奇心を持ちワクワク出来る活動になるよう援助と工夫していきたい。	A	・ スキップや鉄棒、逆上がりなど出来るように前向きな声を掛けてくれたのが良かった。 ・ 行事の際に先生方が変装したりして盛り上げてくれていて良かった。また、絵本や紙芝居で知らせてくれてわかりやすかった。 ・ 製作では今までの経験を活かし、細かなことが出来るようになっていた。 ・ 発表会も詰め込むのではなくゆとりを持って取り組めるようにしてくれていた。

子どもたちの安全に気を配り安心して生活が送れるよう環境構成や言葉掛けを行っていたか	B	➤ 子ども達自身が遊びの中で危険な事かどうかを考えられるよう援助した。 保育室では隣のクラスも利用し子ども達が様々な事に安全に楽しく出来るようにした。戸外の時はクラスの子だけでなく、全体にも目を配り、危険がないように気を付けた。特に脇の方、物陰、畑、遊具の上など子どもが一人でもいたら目を配るよう気を付けている。自分でやりたいと思う気持ちと出来ることは違っているので危険がない範囲でやってみたいを実現できるよう配慮した。 ➤ 引き続き安全に遊べるように環境構成や声掛けは心掛け、子ども一人一人が安全かどうか、判断できるよう考える力や感覚を育てていきたい。年齢に合わせ気を配る部分を配慮する必要があると改めて感じた。 ➤ 担任は多数の子に気を配るので、フリーの職員は細部に気を配るようにしたい。また、特定の子の行動により周りの子がけがをしたり嫌な思いをしないよう気を配った。	A	・ 入ってはいけない場所に入ってしまったとき、クラスの先生以外が注意をしてくれて、皆で見ているんだなと感じた。 ・ 大きな怪我もなく安全面では特段心配していることはない。小さな怪我はした方がその子の経験になるのではないかと感じる。 ・ 小さい子は怪我の理由を自分で上手に伝えることが出来ないので、教師の補助や援助が必要。
子ども達に寄り添った援助や年齢に応じて育ってほしい姿を伸ばすことが出来ているか	A	➤ 声の掛け方で子どもの成長の様子も変化するので、子ども達に対し明るくかわるよう気を付けた。 ➤ 子ども達の興味のあること、出来るようになったことをもとに段階をふみステップアップした取り組みが出来るように配慮した。しかし、伸びは個人差があるので個々にあった援助が難しい。出来ないからやめるのではなく、諦めず援助を行っていききたい。 ➤ 最終学年では自分たちで考えて行動できるように援助するなど心掛けていた。子ども達で声かけあう姿や進んで行動するなど、成長が見られる一方、もっと様々な援助が出来たのではと感じる。→クラスを運営するうえで子どもの姿を捉え、どんな一年にしていけるのか、どんな姿に育てたいのか明確にする。一か月ごとに予定と反省を必ずし、次回に活かせるようにしたい。	A	・ 年上のお兄さん・お姉さんの頑張っている姿を見て、下の学年の子も諦めない気持ちを持つことが出来たようだった。 ・ 出来ないことに対してもプラスの言葉で応援してくれた。 ・ 子どもの可能性を信じ、見守ってくれる部分も多く、子どもの身体能力の成長が伺えた。 ・ 年齢に応じた対応と言っても個人差があると感じる。

		➤ どのクラスも学年に応じた保育を行っていると思われる。学年によってねらいが異なるので適した援助が必要であると感じる。なので、担任に個々の伸びてほしいところを聞きながら出来るだけ、その思いに沿い、同じ行動、言葉掛けをするようにいた。		
子どもの園での姿や育ちに関することを保護者に伝えたり、相談相手になったりして情報交換を図っていたか	B	➤ クラスだよりや個人面談、登降園の際など子ども達の気になることや出来事は様子を伝えるようにしている。 ➤ 引き続き、保護者とのコミュニケーションは大切にしていきたい。登降園の時間など保護者と触接話が出来るときはその場なるべく伝えていきたい。 ➤ もっと雑談や世間話など親密度を高める会話が行えるようになりたい。 ➤ 発達に関する話は言葉が足りなかったりし保護者の誤解を招いてしまうことがあり難しいと感じた。→保護者に間違った伝わり方にならないようしっかり考え、先輩保育者に相談しながら伝えていきたい。 主に担任が話をしているので、フリーの職員はお友だち会での出来事や担任に+αを伝えるようにしている。	B	・ 話が苦手な保護者もいるので、先生達から子どもの報告を聞けて嬉しい。 ・ 面談の時間が若干短いと感じる。直接話をした方が間違いないが、連絡帳など補助の物があっても嬉しい。 ・ ネガティブな話は急にされるとかまえてしまう。子どもの良いところを話、親密度を作ってからの方がありがたい。

4. 総括・特記事項

● 毎月、毎週、活動内容の書類を作っている。そこには前週の子どもの姿や今週学んでほしい事などを記入している。しかし、実際とは違い思っていたより出来る、出来ないがある。子どもの成長した様子ふまえた新たなねらいを立て、計画を練り直していくようにしている。 ● 保護者と連携して保育することが難しいと感じるときがある。子どもの成長をねがい、子どもの今の様子を知ってもらい家庭と連携をとれるようにするのが大切だと感じる。 ● 行事の準備や片付けなど、子どもがいる場所だと職員の手も足りなくなるので、今後保護者の手伝いが多いと嬉しい。 ● マンネリ化を防ぐため、新しい取り組みがないか考えた。マラソン大会などもその一環だが、急に取り入れたものは長続きせずその場で終わってしまうことも多いので、継続して進められる活動を考えていきたい。 ● 保護者の方と給食を一緒に食べながら情報交換をしたり、雑談したり交流する機会があったらより保護者との距離感が縮まるのではないかと感じる。 ● 子どもの発達を読む力や発達障害の勉強をしたいと感じた。 ● 室内でのちょっとした時間にできる頭や指先を使うゲームなど豊富に知っておきたい。 ● 大きな遊びの波や行事が終わると活動が止まってしまうので、次の活動に上手に移行していくことが出来れば継続的につながっていき良いと感じる。
--

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教師の資質向上について	● 個々では、保育誌や保育の専門書を読んだり見たりして、保育の参考にしたり、新しい活動のアイデアを考えたりする。 ● 常に教員同士で話し合ったり、相談したりすることで問題を解決したり園児理解を深める。 ● 日々や週、月、学期で保育を振り返り、反省点を見つけ次に生かすように努力する。 ● 研修や講演会に積極的に参加し新しい知識を吸収し、教員全体で共有していく。 ● 美術館や博物館などに足を運び、たくさんの作品や資料に触れ感性を磨く努力をする。
保護者への対応について	● 保護者との信頼関係を築けるように、子どもの様子を些細なことでも伝え、一緒に子どもの成長を喜び合い、連携を図る。 ● 流行している感染症や欠席状況など公開できることは、正確に情報を発信し、保護者の不安を軽減する。 ● 個々の子どもについて教員同士で連携を取り合い、担任だけでなく教員全体で子どもを見ていることを示し安心してもらう。
地域とのかかわりについて	● 地域の中学生の職場体験の受け入れ、小学校の見学や交流会等、地域の施設との交流を広げる。 ● 未就園児の会を開き園庭の開放をしたり、同じ年ごろの子を持つ親同士のコミュニケーションを持つ場として提供する。

6. 学校関係者評価委員からのコメント

- ・誕生会の劇は先生たちが工夫を凝らしてくれ、とても楽しんでいる。
- ・参観会など以外にも普段の保育の様子を知る機会があれば嬉しい。
- ・先生たちが忙しそうにしている、なかなか相談や話をしづらい時がある。個人面談のように話ができる場が増えると嬉しいと感じる。
- ・子どもの姿も家庭とは違い、集団の中でないとわからない部分がある。今後も子どもに寄り添う保育を行ってほしい。

評価年月日 令和8年 3月 6日

評価者